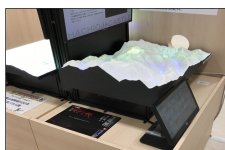


ファーストペンギン通信

第13号
発行日
令和3年9月13日(月)
発行人
八王子実践中学校
中学部長 石川敦史



7月12日（月）13名の生徒が訪れました。今年6月に八王子駅南口のサザンスカイタワービル3階にできたのが、「桑都日本遺産センター八王子博物館（はちはく）」です。



以前の八王子郷土資料館より床面積は狭くなりましたが、プロジェクションマッピング、立体白地図に情報を投影する装置、ガラス展示箱とその下にある展示用の引き出し、

動画投影用の100インチスクリーンなど。以前の施設にはなかった展示方法でコンパクトながら、見ごたえのあるものが並んでいます。

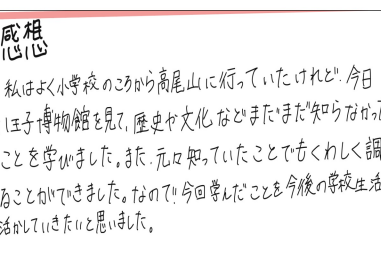
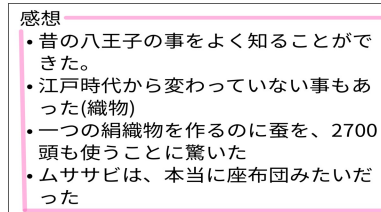
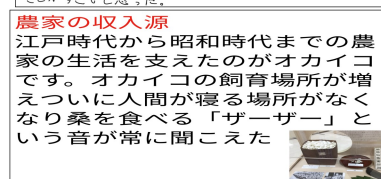
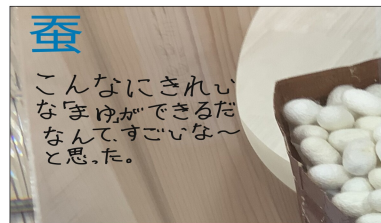
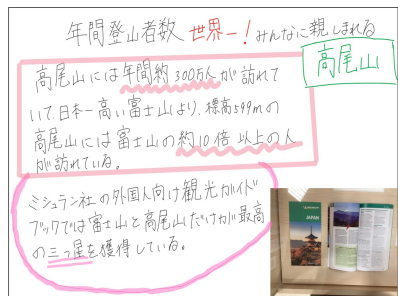
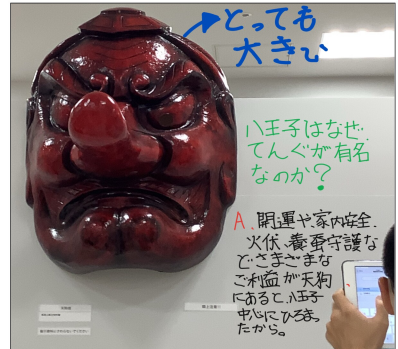
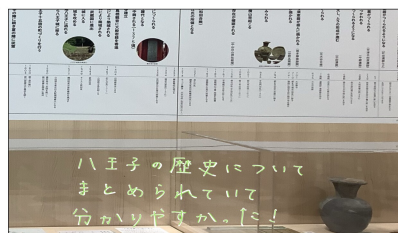


展示品の番号を入力するだけで、音声ガイダンスが利用できるのです。

生徒たちはiPadを駆使しながら、各展示ブースを回って資料を集め、レポートを作成しました。一部ですが紹介します。

加えて、ミュージアム展示ガイド「ポケット学芸員」というアプリをインストールして使いました。「はちはく」を選んで、展示品の番号を入力するだけで、音声ガイダンスが利用できるのです。

J-Trial特集号 その2 八王子博物館探究

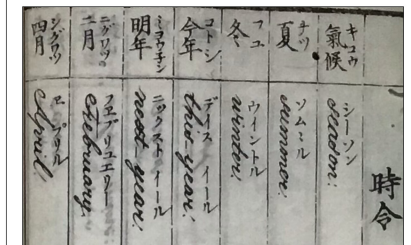


絹の道

鑑水(やりみず)の生糸商人は八王子の市場で買い集めた生糸を、鑑水峠を越えて横浜に運び輸出しました。八王子から横浜へのこの最短ルートは昭和32年郷土史家橋本義夫により「絹の道」と名づけられました。



生糸商人は次のような「英語箋」で英語を学び、外国商人と取引をしたのです。



八王子市が養蚕業で栄えていたことは知っていましたが、当時の情景や、輸出経路のことまでは知りませんでした。生糸によって得たお金を武器や物資に使い、国家を支えてきたと思うと蚕や桑はとても大切なことが分かりました。